

むかしあそびの たのしさをつたえよう！

単元名:いろいろあるね 日本のあそび

1年	生活科	小澤厚史・後藤瑞穂
----	-----	-----------

学習のゴール

地域の方に教わったり、ICTを活用したりして身に着けた昔遊びの技術を活かして、校内や保護者に昔遊びの楽しさを伝える。

身に付けさせたい力

- ・やり方やコツ等が伝わりやすいように説明する力。
- ・手本(動画)等を、視聴しながら自身や友達の技能を向上させ習得したりさせたりする力。

情報活用能力ベーシックによる学習のプロセス(16時間)

学習プロセス	時	学習内容
1 課題の設定	1	○園児との交流会を行うことを知る。 ○学校紹介の他にどのようなことができるかを考える。 (秋遊びや昔遊びを教える活動等)
2 情報の収集	2 3~6 7 8~10	○本を読み、どのような昔遊びがあるかを調べる。 ○昔からある日本の遊びを知り、どのようにして受け継がれてきたのか、どのような魅力があるのかを考える。 ○YouTubeで昔遊びの練習をする。 ○一回目の幼稚園生との交流をする。 ○地域の方に昔遊びのコツを教えてもらう。 ○地域の方の昔遊びのコツを教えてくれている様子を撮影し、動画を共有する。
3 整理・分析	11~13	○YouTubeや、達人の動画を見ながら昔遊びの練習をする。 ○授業参観で昔の遊びを披露する。 ○自分の得意な遊びを選び、教えられるくらいの技量を身に着ける。
4 まとめ・表現	14 15	○幼稚園生や保育園生に昔遊びのやり方やコツを伝える。 ○校内に昔遊びのやり方やコツを教える会を開く。
5 振り返り・改善	16	○昔遊びの活動を通して、身についたことを振り返ったり、次に生かしたいことを確認する。

実践の流れ

1 課題の設定(1時間目)

1学期に行われた、2年生との学校探検や6年生との交流会等を振り返り、「自分たちにできることは何か」という視点で活動内容を考えた。上級生にしてもらったことから感じたことや、どのような目的や気持ちをもって交流をしてきていたのか等について、企画をする側になって考えた。3学期の1月と2月にかけて幼稚園・保育園生との交流会があることを知り、1・2学期の体験から会に向けてできることをまとめた。目的は、様々な体験を通して学校は楽しい場所であることを伝えることと、小学校の入学に向けて、前向きな心を持つことができるようにすることになった。①ここで出てきた意見が実際に自分たちにできることなのか。②具体的にどのような遊びや物を用意するのかなど、細かい内容について考えることへとつなげた。

- 1、むかしあそびをいっしょにやる (どうがを見ながら)
 - 2、おりがみをいっしょにおる(むずかしいの)
 - 3、おりがみのプレゼント
 - 4、えをかく プレゼント
 - 5、どんぐりなどこさくをしてプレゼントをする
 - 6、ぬりえをする とうばん
- おともだちができるか。どんなものがわからない。
おべんぎょうができるか。きゆうしよく。そうじ。
たんにんのせんせい。どんなおべんぎょうがあるか。
たくさん ふあんのことがあるので、すこしでもあんしんできる。
- やさしくおしえてもらえる。かつこいいところをみせる。きょうしつをきれいに。
たのしさをつたえられる。しっかりする。えがおでおしえられる。

2 情報の収集(2～10時間目)

前回の話し合いで出た意見をもとに、昔遊びにはどのような種類があるのか教科書や経験をもとに調べてみた。また、幼稚園・保育園生と一緒に活動できそうなものや、地域の方に教えてもらえそうなものを抜粋した。地域の方との交流会の前にYouTubeの動画を参考に昔の遊びの練習を行い、第一回目の幼稚園生との交流をした。交流後には以下のような反省があげられた。『教える』ことはできたが、練習不足で幼稚園生よりも自分のことを優先してしまったことが多くの反省として挙げられた。また、教えられたことへの達成感をあまり感じている様子がなかった。よりよい技能の習得のために地域の方の力を借りて練習を行うことを目指した。交流にきてくれる幼稚園生・保育園生のため活動であることを意識させながら、地域の方との交流を行った。YouTube(動画)と比べ、実際に教わることの大切さに気付いた。同時に、ビデオ係を設け、地域の方に説明をしてもらっている動画を撮影することで、コツの確認をやすくした。今回教えてもらった方法やコツなどを最後の幼稚園生との交流会に活かしていけるように練習に励むようにつなげた。



よかったところ

- むかしあそびをおしえられて、よかった。
- コツをおしえることが、できた。
- ようちえんはいが、できようになつてよかった。
- やさしくできた。
- かつこあんないあんないひができた。
- ランドセルたいけん、ようすをまじこができた。
- しずかに、まわることでできていた。
- どうがをまかして、いっしょに、かかんをしながら。
- まわりで、こまかけをしていた。
- これから がんばりたいこと
- むかしあそびのみんなのうたがたりなくておしえるのはよかった。
- じふんの、れんしゅうをしてしまっていた。
- おはしをきかせる。いしきき、わきせせる。
- むかしあそびのれんしゅう。



3 整理・分析(11～13時間目)

動画をもとに自分の技量について確認をし、振り返り練習を行った。授業参観では、保護者に披露することを目的に技能の向上に努めた。得意とするものを選び、集中的に練習を行った。児童同士で教え合う姿も見られるようになった。また、iPadで友達の姿を撮影し、自身の練習に活かすなど主体的にICTを活用する姿も見られた。授業参観を経て、技能を高めるとともに、披露することへの慣れを感じた。児童からは、『はやく幼稚園生に教えたいたい』というように、技能を高め習得したことから自信をつけ教えることへの意欲へとつながった。

4 まとめ・表現(14～時間目)

練習を十分に行うとともに、これまでの経験を活かして、3度目の交流会に臨んだ。教える姿だけでなく、園児の活動が成功すると一緒に喜ぶ姿が多く見られ心の成長を感じた。また、校内にも向けコツを披露した。(校内向けにも交流会を行う予定です。)



5 振り返り・改善(15時間目)

児童の感想は以下のようなものがあがった。多くは、教えることができるようになってよかったという内容だった。最初からできるものよりも、たくさんの練習や勉強をしてできるようになったことを教えることの楽しさや、大切に気付くことができた。

子供たちの感想等

- ・様々なことを教えることで、相手が喜んでくれることが嬉しいと感じた。
- ・たくさんのことが教えられるようになってよかった。
- ・最初は不安だったが、たくさん練習をして教えることができてよかった。
- ・動画を見たり、教わったりとたくさんの勉強をしてできるようになってよかった。
- ・昔の遊びを通して、幼稚園生や保育園生と仲良くなれてよかった。

子供の変容

学習前と学習後にアンケートを実施した。変容は以下の通りである。

1, 人に何かを教えることに自信はありますか。

すごくある 36.1→61.0 ⇒ 24.9 ポイント上昇

あまりない 22.3→2.4 ⇒ 19.9 ポイント減少

2, iPad を使って、何かを練習することにじしんはありますか。

あまりない 16.7→4.9 ⇒ 12 ポイント減少

3, iPad をつかって、何かを教えることに自信はありますか。

すごくある 35.1→56.1 ⇒ 21.0 ポイント上昇

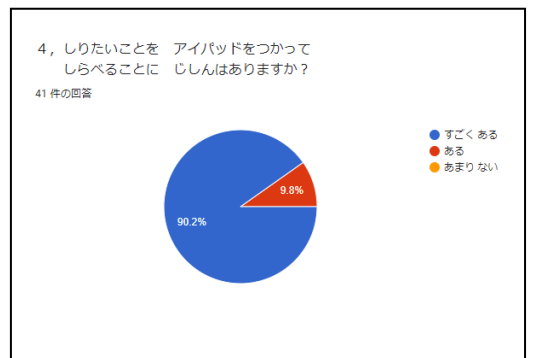
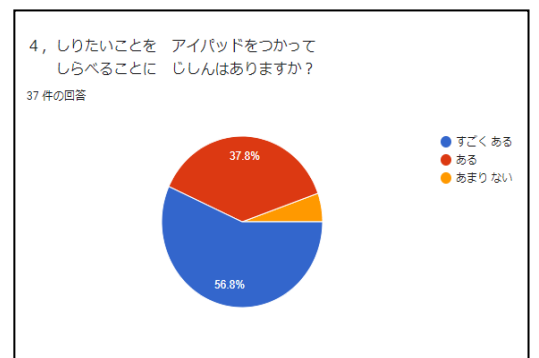
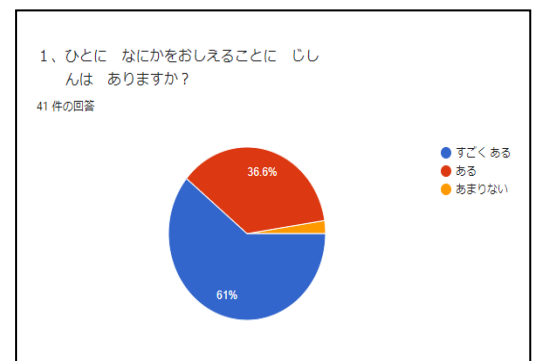
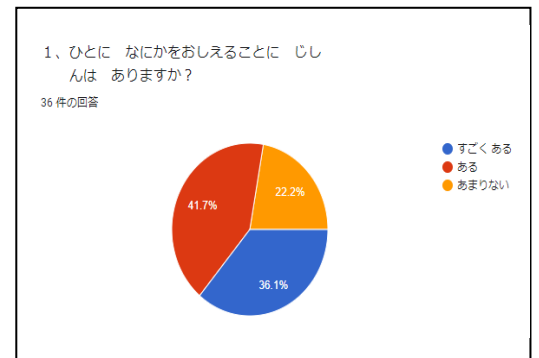
あまりない 29.7→19.5 ⇒ 10.2 ポイント減少

4, しりたいことを、iPad を使って調べることに、自信はありますか。

すごくある 56.8→90.2 ⇒ 33.4 ポイント上昇

あまりない 5.4 →0.0 ⇒ 5.4 ポイント減少

全体を通して何かを教えるという観点で、自信を持てるようになったという思いが強くなったことがわかる。ネガティブな意見の全て減少している。今回の活動を通して、ICT を使うことで「教える」ということに自信を持って取り組むことができることがわかった。



創造性を育む学びのポイント

Point！ 実際に教えてもらうことと、動画を通して学ぶことの両方を行うことの大切さ

地域の方との交流会を前に、動画を見ながら練習を先に行うことで、動画をだけではわからないことを見つけ、地域の方に実際に教えてもらうためのポイントを探すための手立てに活かすことができた。また、その後動画を通して、練習したこと
の経験を生かし、友達の練習をスローで撮影し練習する児童も見られるなど、両方の良さについて触れ活かす技術も身についた。ICTの活用や実際に教えてもらうことの両方のメリットやデメリットを活かし、自分にあった練習方法を選択する力が身に付き、選ぶ自信にもつながった。今後のICT活用に活かす大きな経験となった。



Point！ 多くの場面で段階的にステップアップ

幼稚園生と保育園生に教える技能を身に着けることが学習のゴールとなっていたが、3園と交流する中で地域の方々との交流、授業参観での発表会等で、少しずつステップアップをすることで、自信をつけることにつながった。低学年で、身に着けるまでに時間がかかることや、様々な経験を通して、身に着けた技能を存分に発揮できる場を設けることは、着実な学習の学びへと繋がった。

